

かわら版→Kawaraban means commercial news sheet of the Edo period. We named "TMC かわら版" after it.

ひとこと 佐藤 泰生さん (TMC 理事長)

新年おめでとうございます。日頃から TMC の活動にご支援を頂き、ありがとうございます。今年は、新年早々、緊急事態宣言が出るとは思っていなかった皆様が多いと思います。外国から来られて日本で生活されておられる方々も、同じように不安に思われていることとおもいます。こういう時こそ立川市の多文化共生都市宣言の第一に書かれているように、「思いやりの心を持って」ということが大切だと思います。引き続き TMC の活動にご支援をよろしくお願い致します

～12月・1月はこんなことをやりました～

- ・2020/12/13 (日) 14:00～16:30 アイム 5 F.において「多文化共生のひろば」が開催された。
- 実施場所：第3学習室&第2会議室 (リモート)、ZOOMによる参加
- 参加者数：79人→リアル；会員15、一般28、リモート；会員3、一般33
- 内容：テーマ：「SOS！外国ルーツの子の学び」

①基調講演 1. 立川市第二小学校 吉岡校長

2. YSCGS ピッチフォード理絵さん

②パネルディスカッション：バシネット・ハリーさん (親)、バシネット・ビシャルさん (子)、ピッチフォード・理絵さん (YSC)、小林教諭 (2小)、新堀係長 (立川市) をパネリストに迎え、桑原一雅さんの進行のもと活発なディスカッションが行われた。質疑応答では会場及びリモート参加者より寄せられた多くの質問に、講演者、パネリストから回答があった。

*「ひろば」後に寄せられたアンケートは実に 60%を超え、テーマへの関心の高さがうかがえた。



～事業委員会より～

「多文化共生のひろば」を終えて

昨年12月13日 (日) に「ひろば」が開催され、関係者も含め、総勢80名以上の方々に参加して頂き、盛況のうちに終えることができた。今回のテーマである「外国にルーツがある子の学び」への関心が高かったこともあるが、何より、TMC内のみならず、立川市内の他の多くの団体や個人の方々との「連携」が図られ、協力が得られたことが大きかったと思う。市民ボランティア団体同士が結束し、連携することの大事さを感じる機会であった。「連携」の意義は「共通の目的に向けて心を一にしたコミュニケーションを行い、同じ志を共有する事」にあることを実感した。市民活動団体としてその活動にいろいろ制約がある中、他の団体とも「連携」することで想定以上の成果が得られ、また同じ志を持った仲間に出会えることの喜びも味わえた貴重な経験であった。(桑原一雅)

ひと TMC

陳 樺さん

中国出身。鉄道総研に勤務。研究室長を担当し、経営と研究開発両方の業務で多忙な日々を送っている。TMC には設立当初より参加。副理事長や理事を務めた。家族は4人 (夫、息子2人) で長男は 4月から立川災害医療センターの研修医として勤務。趣味は旅行。

連絡先：TMC事務局 Tel./Fax 042-527-0310

E-mail: tmc@poppy.ocn.ne.jp

文責：TMC運営委員会